

司祭団から

教皇訪日

―三八年前そして今―

主任司祭

松本 勝男

「三八年ぶりの教皇訪日を受けて何か原稿を書いてほしい」という編集子の依頼に、三八年前のヨハネ・パウロ二世訪日の頃のことを懐かしく思い出しています。

一九八一年の二月と言えば、私はまだ高校生。四月の復活祭に洗礼を受ける最終の準備をしていた頃です。それだけにテレビや新聞で報道される教皇の訪日の様子は、今も鮮明に記憶に残っています。特に空港に降り立った教皇がいきなり地面に接吻をされる仕草、日本武道館の「ヤング&ポップ大集会」で子どもたちと一緒に踊り、ポーランド民謡「森へゆきましよう」をポーランド語で歌ってくだ

さったことに、一
国の元首がこれほ
どまでのことをし
てくださるのかと
驚きました。そし
て会場内での
「アーメンハレル
ヤ」の大合唱には、
ブラウン管越しで

ありながらも、涙が出るくらい感動しました。二か月後には自分も洗礼を受けて、あの会場に集まっていた人たちの仲間入りをするのだと思うと、とてもわくわくしたことを覚えています。

思えば、私の人生の節目には何らかの形で教皇が関わってきます。二〇〇六年、司祭生活一五周年の年に、神言修道会のローマの総会議に参加し、バチカンでベネディクト一六世に―遠くからでしたが―お会いしました。また、二〇一六年、司祭生活二五周年の年には、ポーランドはクラクフのワールドユースデーに参加し、フランシスコ教皇に―更に遠くからでしたが―お会いすることができました。人生体験を積み重ねていきながら、折に



触れて歴代の教皇と出会ってきたという
ことは、一人の人間として、一人のキリス
ト者として、一人の修道者として、そ
して一人の司祭として、自分自身を振り
返り、これからの自分自身の生き方を考
えていく上で、大きな恵みの機会だった
と思います。

そして、あのヨハネ・パウロ二世の訪
日から三八年後の今。この原稿を書いて
いる一月中旬の時点では、フランシス
コ教皇の訪日がどのようなものになるの
かはわかりません。しかし、少なくとも
来年司祭生活三〇年目を迎える私自身に
とっては、今回の教皇訪日も、大きな恵
みの機会になるものと感じております。





神父様からの クリスマスメッセージ



「0422 市民クリスマス」

主任司祭 松本 勝男

毎年12月の第2土曜日の夜、私たちの吉祥寺教会を会場に「0422 市民クリスマス」というイベントが開催されています。「0422」が市外局番である武蔵野市と三鷹市、そしてその近隣にあるキリスト教諸宗派の教会が力を合わせて、市民にクリスマスのメッセージを届けようというものです。

聖堂での祈りの集いがメインとなりますが、今年は縁あって、私が「めぐみのクリスマス」というテーマで説教をすることになりました。このメッセージを作成している時点では、目下説教は準備中ですが、改めて主の降誕に至る神様の壮大な救いのご計画を見つめ直すとともに、自分自身がこれまでの人生の中でどのようにクリスマスをご過ごしてきたかを振り返る良い機会になりそうです。

どうぞ皆様も、人生をより豊かにする「めぐみのクリスマス」をお迎えください。

矛盾

ネルソン
音流村・バルバロナ

ご降誕祭おめでとうございませう。救い主である神の子がこの世にお生まれになったことを、心を込めて感謝致しましませう。

私は皆様の降誕節を台無しにしたいと思いませんが、私達は、クリスマスの本当の意味を、私達の生活の中に反映しましませう。神の御子の誕生を祝う全体的な目的は、神が愛であり、私達が罪人であることを悟り、どれほど邪悪であるか認識することにあります。

ところで、中途半端な信仰は、自分に閉じこもるため、神様の愛を完全に理解することが出来ません。ある人々は、一時的な事柄についてしか考えません。そのため、結局、その人々は手ぶらで行き、他の人々を軽蔑するので、彼らが慰めるべき人を持っていません。

親愛なる皆さん、あなた達が笑っている間に、あなた達の内の誰も苦しめないようにしましょう。神の子の誕生は全ての人の正義のためであり、単に、一人、二人、あるいは三人だけのためではありません。この降誕節を幸せなものにする権利は、特定の人だけのものではなく、一人一人が持っているからです。

さらに、私達の兄弟姉妹が、私達のせいで、様々な形で苦しんでいることを知っている時、特にその理由が分かっている場合、私達は、私達のために用意された食卓を、おいしく、また、安心して食べることができません。ご存知のように、クリスマスは、愛、平和、優しさ、寛大さ、和解、理解、そして幸福の時です。それゆえ、真のカトリック信者であるために教えられる多くのことは、残念ながら、現代社会とは大きく対立します。

それゆえ、クリスマスを楽しむ前に、福音書を通してイエスの言葉をいただいて、心をさわやかにされ、その言葉に深く触れるように致しましませう。「あなたがたは、自分の裁く裁きで裁かれ、自分の量る秤で量り与えられる」(マタイ7:2) のですから。

Merry Christmas everyone!

「飼い葉桶」から「十字架」へ

石脇 秀俊

主のご降誕は、御父が幼子イエスに与えられた人生計画と意義が示されます。飼い葉桶に寝かせられたイエスの人生とは、引き裂かれる人生です。そして「飼い葉桶」と「十字架」とは同じしるしです。「飼い葉桶」とは、家畜が餌を食べる器です。飼い葉桶の上に寝かせられたイエスは、誕生と同時に最後の晩餐で示されるご聖体としてのイエス自身が現されます。食物は、引き裂かれ噛み砕かれます。イエスの人生とは、人々に噛みつかれ心碎かれ、十字架上で神と人類の和解のために自らの血と肉を捧げられました。ご聖体のイエスは今なお全人類の贖いのために引き裂かれ、目に見えない血を流し、神との不調和を取り戻すために傷つけられています。

飼い葉桶から十字架で終わるイエスの人生の意義は、終始、自分を裂くことによって、その傷口から傷ついた人々の傷を見、その傷口を癒すために私達の傍に来て下さいました。私達も幼子イエスに倣い、傷ついた人々との連帯の中へ向かわせる、新たな生き方が生み出される日です。

「神の協力者になれるよう」

トゥ・ダン・フック

主のご降誕おめでとうございます。
天地を創造する時から、神が自ら人間との関わりを持ち始めました。全能の方でありながらも神は単独的に自らの形で人間の救いの計画を実現することはなさいませんでした。聖書に示される神は絶えず人間の同意を求め、また人間の協力を必要としていました。アブラハムをはじめ、モーセ、旧約時代の預言者たち、またイスラエルをとおして救いの計画を進めました。頂点となったのは救い主イエスを誕生させるためにマリア様に協力を求めた時です。その招きに対して「お言葉どおり、この身に成りますように」（ルカ 1:38）と自ら応えたマリア様が神の協力者になりました。同じように神は聖ヨセフの保護をも必要としました。

今日もわたしたちのこころ、また世界の人々のところに来られるためには、神はわたしたちの同意や協力を必要としています。どうかクリスマスをお祝いするわたしたちが神の協力者になれるようお願いしましょう。

クリスマスメッセージ

ロベルト・ソリス

12月になるとスーパーの中や道を歩くとクリスマスの飾りをあちらこちらで見ることがあります。そういったクリスマスの雰囲気が見られますが、キリスト教国家ではない日本でも、クリスマスをお祝いますね。勿論、日本だけではなく、世界中ではクリスマスが盛んであるということは、経済的な面があるとよく言われます。

では、信者としてクリスマスをどんな形でお祝いするのでしょうか？「神様がその御独り子イエスをお与えになったほどに世を愛された」という信仰を持つことこそ、信者ではない人と信者との大きな違いでしょう。イエス様が粗末な飼い葉おけでお生まれになり、そのような貧しさという事実の中に、イエス様は人間のみじめさをおびてこの世に来られ、神様のみ姿を私たちにお示しになったということです。この最高の愛に私たちがお返ししようとしてもきっと何もできないので、ただ感謝の気持ちを持つことです。どうぞ、皆さん、神様が我々を愛された同じ愛によって生きることができるよう、心から皆さんに主のご降誕おめでとうございます、とご挨拶申し上げます。

聖霊の息吹

韓国からこんにちは③

ささやかな温かみ

聖霊奉侍布教修道女会

町村 治美

主の御降誕、心からお祝い申し上げます。子供から大人までよく知られている降誕物語は聖書の中でマタイとルカ福音書のみが存在し、意図をもって書かれたことがうかがわれます。神でありながら真の人となられたイエス様。必要なものにも事欠くような貧しさの中で、人間への全き信頼のうちに人となられたイエス様の物語は私たちに深い希望を与えてくれます。何よりその存在が周りを明るくする赤ん坊のように、神は無力な姿でお生まれになることを選び、マリア様、ヨゼフ様、羊飼いの、東方からの学者など、人間が共に救いの計画に参加することをはじめからお望みになりました。

さて、私の修道召命の「はじめの物語」は吉祥寺教会で洗礼の恵みを受け、青年会活動にいそしんでいた際、同じ創立者を持つ神言会のヘリ神父様に何度か、聖霊会小金井修道院の黙想会に誘われて参加したことが始まりでした。当時小金井修道院には韓国から帰国した日本人シスターが2名、インド人のシスターが1名、幼稚園の園長とお台所の日本人のシスターが1名ずついらつしやつたと記憶しています。修道院というとちよつと敷居が高いと思っていたのに、どんな人でも受け入れるよ、というような自由な雰囲気を感じました。黙想会では自然の素材を使って十字架の道行きの留を自作したり、詩編の中で「あなた」という部分を自分の名前に置き換えて祈ったり、御土産に手作りクッキーを頂いて素朴な温かみを感じたりしたことを思い出します。リラックスしすぎたのか、黙想会後、『お変わりなくお元気ですか？先日は靴下をお忘れになつたようですので、お送りします』という手紙をいただいたのはいつの黙想会のことだったでしょうか。数年後、たまたま聖霊会の黙想会に出席して

再び心が燃やされたこと、同週に青年会担当でもあつたノルベルト神父様が急遽帰天されたこと、そのような中で、与えられたいのちの大切さを深く気づかされ入会を決めるに至りました。

今、韓国での宣教活動をするにあたって共に生きる人々の恵みに改めて感謝しつつ、私たちを結ぶ人間味ある「ささやかな温かみ」のうちに主の御降誕をお祝いしたいと思えます。

現在、韓国語の勉強をつづけながら、週一で炊き出しのお手伝いをしています。写真は卵焼きを準備中。



神学院からの随想②

「自信を取り戻そう」

神言修道会神学生

傍島義雄ほしじまよしお

皆さん、こんにちは。お元気でお過ご
してようか。私の方は日本に戻って来
て数カ月がたち、そろそろ神学院での生
活に慣れてきたところです。九月から南
山大学で、科目等履修生としていくつか
の授業も受講させていただいています。
前回お知らせしたとおり、十月十九日
に、ガーナからの神学生二人が無事に名
古屋の神言神学院に到着しました。私は
ガーナでの生活のはじめの頃に、志願生
たちが住む養成の家で彼らとともに暮ら
したことがあります。私は、日本で彼ら
と再会できたことをとてもうれしく感じ
ていますし、彼らとしても、日本に来た
初めから日本人の知り合いが同じ建物内
に住んでいることで、少しの安心感を得
られていると思います。

私にとってガーナでの生活はとても貴
重な経験であり、これから自分が克服し
ていかなければならない課題がいくつ
か見えてきました。たとえば、言語の習得
や少人数での生活、決断力やリーダー
シップを発揮することなどについてです。
そのような中で、私は神学院における
行事の「総務」という役目を任せられま
した。そして、ガーナからの神学生二人が
名古屋に到着した次の日、つまり十月
二十日に神言神学院においてオープンハ
ウスが開催されたのですが、私はその行
事全体のまとめ役、調整役をさせていた
だきました。神学院のメンバーたちを行
事の各係りにどのように割り振るべきか
考え、それをお願いしたり、会議におい
て司会を務めたりすることは、私にとっ
て勇気のいることでした。しかし、その
ような仕事の経験や反省を通して、近い
将来、司祭として奉仕していくための運
営能力やリーダーシップが養われていく
のだと思います。また、司祭、ブラザー、
神学生、志願生を含めた神学院メンバー
皆で協力して行事をつくり上げていく中
で、共同生活の力強さをあらためて感じ、

時として私の中で弱まりがちであった自
信を、少しずつ取り戻せてきたように思
います。

皆さんは今回、どのようにクリスマス
と新年を迎えているでしょうか。そうい
えば前回のクリスマスや元旦には、私は
ガーナの村にいて、その村の教会で礼拝
を指揮し、説教まで作っていたことを思
い出します。自分をもっと自信を持たな
ければならないというよりも、神さまが
私を成長させ、使ってくださいているこ
とに対して、もっと信頼を持つべきなの
かもしれません。皆さんの新しい一年の
上に、神さまの豊かな恵みと祝福がある
ように、心からお祈りいたします。



ことを否定できません。私達は、イエス御自身が教えられた価値観を理解し、取り入れ、他者を受け入れるという私達の責任を再確認する必要があります。私達は企業の営業部ではなく、信徒の共同体の中にいます。したがって、排他性という考え方は、私達の領域になく、社会的地位や人種を問わず歓迎的な姿勢を取らなければなりません。これこそ、試練と不安定さの真つ只中で、豊かな社会的相違と文化を受け入れるという多様性が意味していることです。排他的な経済は、世界経済の概念を増大させるだけでなく、地方教会にも関係しています。地方教会における救いの経済は、深い信仰、愛、慈善に依拠するだけでなく、それらを実際に適応して行動することにかかっているのです。

(次号に続く)



お知らせ ~ Information ~

~ 2020 年度の駐車許可証発行について ~

北広場の駐車許可証の申込は、例年通り2月末から3月半ばに受付けます。利用ご希望の方はくれぐれも申込期間に遅れないようにお願いします。例年遅れる方が散見され、事務手続きに支障をきたしております。



■事務室受付時間(通常)■

日曜日 9:00~18:00
火~土曜日 9:30~18:30
※定休日: 月曜日・祝日

■売店営業時間(通常)■

火~日曜日 10:00~18:00
※定休日: 月曜日・祝日

■ミサ時間案内(通常)■

主日: 7時・9時(日曜学校)
10時30分・12時・18時
* 第1日曜16時(英語)
* 第3日曜16時(タガログ語)
平日: 7時/金曜: 7時・12時
土曜: 7時・16時(主日のミサ)

※年末・年始は事務室受付時間、売店ともに時間が一部変更いたしますのでご注意ください。

(上記受付時間、売店営業時間は変る場合があります)